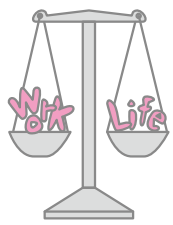


が“金も欲しい、休暇も欲しい、もっとラクな仕事がしたい、自分の趣味をもっと楽しみたい”と願うとしたら、それを周りの人は受け入れてくれるでしょうか。

それらの欲求を満たしていく上では会社や仕事を切り離せないのが現実です。“会社（仕事）は会社（仕事）、家庭は家庭”とよく言ったりしますが、この両者を実際、完全に分離して仕事ができ立つのでしょうか？家庭が成り立つのでしょうか？そのような考え方は筋が通っていると言えるでしょうか？言葉の上では確かに分離して使い分けはできるでしょうが、「現実を知らない空想論」にすぎないと考えられます。

②例えば、“私（俺）は自分の務めを十分果たしている。仕事が終わってからは自分の時間。自分の時間に仕事の仲間と関わりあいをもちたくない”と割り切っている人がいるとしましょう。アフターファイブは一切、仕事や会社の仲間とのつき合いをシャットアウトすればどうなるでしょう？周りの多くの人は彼に「人間」を感じずに冷たさのみなを感じるでしょう。そうなれば、仲間や部下からの理解や協力が得られずに次第に孤立していくことは必至です。そのような考え方や行動を“合理的だ、現代流だ”と言ったりもしますが、事実は全く逆であります。人間は行き過ぎた合理性には息がつまり、なんらかの軋みが生じるものです。人間はそんなに合理的にはそもそも出来ていないのです。矛盾を孕んでいる

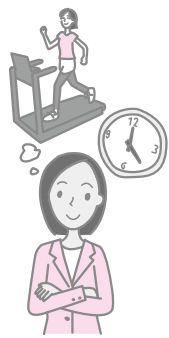


①会社人間になるべき、あるいはマイ・ホーム主義者になるべきと決して言うつもりはありません。また逆に、いずれかになつてはならないと言うつもりもありません。仕事をバリバリやってこそ、家庭や自分の時間を楽しめます。また逆に、家族の協力やプライベートタイムの充実がよい仕事をさせてくれるものです。

ただ、時と場合によっては、いずれを取るか選択を迫られることがあったり、ケース・バイ・ケースでその優先判断をしていかねばならないこともあります。

②主張したいのは、モノ事の捉え方は反対（対立）概念でなく、矛盾概念で捉えていくことが大切であるということです。ここで言う矛盾とは、まさしく盾（タテ）と矛（ホコ）である

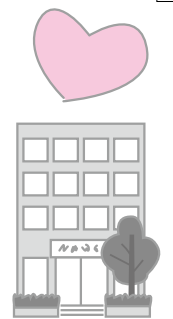
③ 会社と家庭のバランス



のが人間なのです。これらのことを判っていない人には、「マネジメント」は出来ません。なぜならば、マネジメントの本質は、人が対象であるということ、本来人間臭いものであるからです。

④ 愛社精神とは

①『愛社精神』について触れておきますが、『愛社精神』を大上段に振りかざさない方が良く考えます。なぜならば、『愛社精神』の多くの実態は、会社を愛するというのではなく、個人（トップ）に対する忠誠心であり、その忠誠心を暗黙のうちに求めるようなケースが多いからです。それがイエスマンを作り、要領の良い人が出世し、派閥が出来たりするからです。『愛国精神』が本来に国を愛するというものであれば同感なのですが、片寄り、凝り固まった、行き過ぎた愛国は方向を間違え元となります。子供を愛する、人を愛するといった場合も同様のことが言えるのではないのでしょうか。



②誤解がないように重ねて言っておきますが、会社を愛するとか、会社を愛する必要があるとかを言っている訳ではありません。その逆のことを本当は言いたいのです。あるトップが常々社員に語っています。「俺に忠誠心を誓うな。我々の会社を愛そう。人間みんな自分が可愛いんだから。」

※参考文献：会社は家族・社長は親（PHP 研究所）※本文とは異なる説もありますのでご了承ください。※イラストはイメージです。

「会社人間とマイ・ホーム人間」

中小企業診断士 大野 実雄



社」「中年」といった茶化した図式も喧伝されています。もうひとつの家庭人間ともいべきマイ・ホーム主義者は、会社や仕事よりも家庭や家族の方を大切にしておいて優先することや、何をどうやら意味しているのでしょうか。

① “彼は会社人間だ” “彼はマイ・ホーム主義者だ” と他人を批評することがよくあります。一般的に会社人間とは、家庭を犠牲にしてまで仕事に熱中し、会社（組織）に忠誠心を持っている人のことを言っているようです。また、「会社人間」を「会

① 会社と家庭（会社重視人間と家庭重視人間）

②会社と家庭とどちらが大切か、どちらを取るかといった二者択一的に論じることが、果して意味のあることなのでしょうか。このように両者を対比させて単一の価値観でモノ事を判断し、どちらかを選択するとすれば “あちらを立てればこちらが立たず、こちらを立てればあちらが立たず” といった二律背反（トレード・オフ）の問題が必ず起こってきます。また、そのような論点で論じれば平行線を辿り、必ず行き詰まってしまうのです。なぜそのようなことになるかというと、そのようなモノの捉え方は、会社と家庭というものを相対立し、反対しあうといった概念で捉えているからであります。

③一般的によく言われることですが、“若者は金より休暇（時間）を欲しがっている。中年の家庭人は休暇より金を欲しがっている。” これは本当でしょうか？確かにそのような人もいますが、モノの見方が一面的・部分的すぎており、かつ十把ひとからげではないでしょうか。

② アフターファイブと同僚



①仕事の実力があまりなく、会社（組織）への貢献度も高くもない人間

ある一人の若者じたい、時には休暇より金が欲しい時もあるはずですが、さらに、労働価値観の移り変わりとして、昔は“残業をして出来るだけ稼ぐ”次に“生活をエンジョイする方が良い”でしたが、今は“生活がエンジョイできなければ…”とも言われています。これは一般的傾向としては確かにそのような一面もあるでしょうし、生活をエンジョイしたいという欲求が強まっていることも現代の風潮でもあるでしょう。

おの じつ お
大野 実雄
中小企業診断士・販売士

●プロフィール
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。

